

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所	兵庫県立 和田山特別支援学校	研究チーム名
属・職・氏名	職・氏名 教諭 古屋 光晴	(見てわかる研究会)

研究テーマ分類番号 (15)

(1)研究テーマ
児童生徒の学習意欲を高める視知覚教材の開発と活用
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>1 時間割表示について</p> <p>第1段階</p> <p>4月6日 1日の時間割表示の仕方や表示カードについて検討会</p> <p>4月7日～中旬 表示カードの作成</p> <p><成果と課題></p> <p>1日の流れをカードで表示し、児童生徒が1日の流れを把握しやすいようにした。また紙をラミネートで包装することで、破れないようにした。しかし、表示カードが文字だけであったので、絵を加えたカードを作成し、より児童生徒が一目見てわかるものにした方がよいと反省した。</p> <p>第2段階</p> <p>6月・7月 絵カード作成用のソフト等の調査および検討</p> <p>7月28日 1日の時間割表示の仕方や表示カードについて検討会</p> <p>8月 9日 表示のカード作成</p> <p><成果と課題></p> <p>既存のパソコンソフトの中に学校での生活場面が多く含まれるものを見つけ、表示カードを作り直した。教科名の横にイラストを入れ、教科名にもルビを打った。また、児童生徒によっては、小さめの表示カードを作成し、個人用ホワイトボードで時間割を再確認できるようにした。</p> <p>第3段階</p> <p>9月～12月 行事に合わせて表示カードを適時作成。</p> <p><成果と課題></p> <p>1日の流れを把握しやすくなったことで、児童生徒は落ち着いて学校生活を送る様子が見え始めた。朝の会や終わりの会で児童生徒が自主的に表示カードを張り替えることができるようになってきた。</p>

2 児童生徒の実態把握について

4月～5月 児童生徒の実態把握

毎月第4月曜日 児童生徒の実態について情報交換

6月 3日 自閉症学習会

6月21日 視機能に関する学習会

8月18日 自閉症学習会

8月27日 視機能に関する学習会

<成果と課題>

児童生徒の実態把握を行い、適時情報交換を行った。また、自閉症の児童生徒について学習会を持ち、その特性等について理解を深めた。さらに、発達障害がある児童生徒の見え方について、関連する著書や講演会での記録をもとにチームで理解を深めた。どのような視覚教材を作成するのかという観点だけでなく、児童生徒の目の動きについて把握しておかなければ、しっかりとした支援はできないことをチームで共通理解した。

3 大型モニターの活用

パワーポイントにより、校外学習や修学旅行等の行事の事前学習および学習のまとめを行ったり、各教科で画像の提示を行ったりした。また、ICレコーダーで録音した音声を表示画面に合わせて流すなど、視覚に加えて聴覚での支援も行った。

<成果と課題>

画像を見ながら学習を行うことで、児童生徒の理解を深めることができた。また、音声を加えることで、より学習効果が上がった。今後は、パワーポイント以外により活用しやすいソフトはないか調査すること、より理解を深めることができるような提示の仕方を模索することが課題である。また、教材をデジタル化する場合の著作権についても研究を深めていきたい。